

第三回 日本語スピーチ コンテスト

(テーマ)

- ①日本ってどんな国 外国人が感じたもの
- ②現実化する気候変動に思うこと



開催報告誌

2020年9月

港ユネスコ協会

第三回 日本語スピーチコンテスト

- 日時 2019年12月14日(土)
午後1時30分～午後4時00分
- 会場 港区立生涯学習センター101号室
- 主催 港ユネスコ協会
- 後援 港区
日本ESD学会
ESD活動支援センター
関東地方ESD活動支援センター
- 協力 玉川大学ユネスコクラブ
慶應義塾大学ユネスコクラブ

目次

1.	第三回日本語スピーチコンテスト開催について	P2
2.	第三回日本語スピーチコンテスト開催に寄せて 明治学院大学教授 渋谷 恵 (審査委員長)	P3
	玉川大学教授 小林 亮 (交流会企画・実施)	P4
3.	ご挨拶 港ユネスコ協会会長 永野 博	P5
4.	プログラム	P6
5.	スピーチ	
①	Zhao Xuelon (中国) Chief Quotation Engineer ロトルクジャパン (株) 「健康大国 ニッポン」	P7
②	Michela Mirabile (イタリア) 主婦 「私の日本での生活は change, chance, challenge の 3C で表現できます」	P8
③	Elyse Sieun Oh (USA/韓国) 西町インターナショナルスクール2年生 「ふしぎで大好きなにほん」	P9
④	Javlonbek Abdikarimov (ウズベキスタン) 国際日本語学院学生 「日本に来て不思議に思った事」	P10
⑤	Amey Kulkarni (インド) 教師 「Japan, India and Me」	P12
⑥	Karen Jia-rong Lee (オーストラリア/台湾) 聖心インターナショナルスクール学生 「きこうへんどうにていあんしたいこと」	P13
⑦	Abduqosim Suraiyoi (タジキスタン) タジキスタン国立言語大学、武蔵野大学交換留学生 「日本に来てうまれた私の心」	P14
⑧	Huang Chen (中国) システムエンジニア 「日本って素敵！」	P16
⑨	Fathan Abdillah Iskandarmuda (インドネシア) Tokyo International Business School 「できることからやる」	P17
⑩	Brook Abebe Damtew (エチオピア) 糀谷中学校 「The Capital city of Ethiopia」	P18
6.	会場参加者とスピーカーとの交流会	P19
7.	審査委員	P20
8.	審査基準	
9.	審査結果	P21
10.	表彰式	P22
11.	閉会の辞 東京インターナショナルスクール理事長 坪谷 ニュウエル 郁子	P23
12.	スピーチコンテストの感想 慶應義塾大学ユネスコクラブ 松本 謙梓	
13.	主催側からのひとこと 港ユネスコ協会副会長 奥村 和子	P24

1. 第三回日本語スピーチコンテスト開催について

日本の社会の動向を考えると、外国人の定住傾向は今後ますます強まることが予想されます。港区の人口は 260,379 人、そのうち外国人の人口は 20,601 人（2020 年 1 月現在）。大使館が多い港区の特徴といえます。近年、港区では優しい日本語を心がけ、外国人にも日本語を語ってもらう取り組みをしています。日本の社会や文化に日頃から深く接している世界各国の人々が日本語でスピーチすることは、それを聞く日本人に対して「新しい視点を与えてくれる好機」です。

港ユネスコ協会では、在日外国人の皆様に日頃の日本語学習の成果を発表する機会を提供するとともに、日本の社会や文化の特色を異なった視点からとらえた話を聞ける場、あるいは国際理解を深める場となることを希望し、2017 年度に初めて日本語スピーチコンテストを企画しましたところ大変ご好評をいただき、今回、3 度目のコンテストを開催する運びとなりました。

2. 第三回日本語スピーチコンテスト開催に寄せて

明治学院大学教授 渋谷 恵 (審査委員長)

2020年12月14日、港区立生涯学習センターで行われた港ユネスコ協会主催の第三回日本語スピーチコンテストに審査委員として参加させていただきました。審査委員を務めさせていただくのは2018年の第三回大会に続いて2度目となります。回を重ねるごとに、スピーカーとして出場される皆さんの多様性が増し、スピーチの内容も深まっていることを改めて感じ、スピーチコンテストの定着と発展を見る思いでした。



今回のスピーチのなかには、国籍や民族は様々であっても、地域のなかで、また人とのつながりのなかで共に生きる存在、同じ地域の住民としての視点に基づく話が多くありました。またテーマの1つとして「気候変動への思い」が取り上げられたこともあり、持続可能な社会に向けて誰もが取り組んでいくべき共通の課題への提言も見られました。出場者によるスピーチ、またその後の交流会は、日本人、外国人というカテゴリーを超えて、それぞれに多様性を持ちながら、共に生きる住民としての対話の場になっていると感じています。こうした場を支えてくださっている皆さま、また日本語でのスピーチに挑戦し堂々と意見を伝えてくださったスピーカーの皆さまに感謝申し上げます。

玉川大学教授 小林 亮

多文化共生に向けた「居場所」づくり

港ユネスコ協会は、2019年12月14日、「第三回日本語スピーチコンテスト」を開催し、素晴らしい成果を上げられました。3年連続して日本語スピーチコンテストを実施されたのは、それだけ参加者の満足度が高く好評だったからだと思います。私も3年連続して参加させて頂きましたが、このイベントは港ユネスコ協会にとってはもとより、日本の民間ユネスコ活動にとって貴重なモデル事例として良き伝統になりつつあるのではないかと感じました。



今回もさまざまな国籍、立場、年齢の外国人の方々が熱心かつユーモラスに日本語でのスピーチを披露して下さいました。それを聴いていて、このスピーチコンテストが貴重な異文化交流の場であると同時に、外国籍の方々にとっての「居場所」づくりの良いきっかけにもなっているのではないかと思います。グローバル化が進む中で日本社会も次第に多文化社会になりつつあり、とくに都心の港区では多くの外国籍の方々が在住しています。しかし民族も言語も社会習慣も異なる日本という「外国」で生活していくことはいろいろな苦労があるはずで、とくに外国籍の方々の悩みとして孤立や「居場所」が見つからないという問題を多く聞きます。この日本語スピーチコンテストはそういう方々の思いを言葉にして伝え、それを通じて日本人参加者と交流会でコミュニケーションを取りながら共通の「場」を創っていく貴重な機会になったのではないのでしょうか。そしてそれは、今後日本がめざす平和で持続可能な多文化共生社会に向けて、SDGsの目標達成にも寄与する素晴らしい優良事例を提示しているように思われました。

多文化共生に向けた「居場所」づくりのビジョンがあつた限られた時間の中で垣間見られたとすれば、それはスピーカーの方々をはじめ、主催者である港ユネスコ協会の方々、審査員の先生方、交流会ファシリテーターとして協働してくれた慶應大学ユネスコクラブと玉川大学ユネスコクラブの学生たち、そして参加者のみなさんが同じ仲間、地球市民として協力し合えたからです。そうした全員野球のフォーラムを設定して下さいました港ユネスコ協会の構想力に心からの拍手を送りたいと思います。

3. ご挨拶

港ユネスコ協会会長 永野 博

港ユネスコ協会の開催する日本語スピーチコンテストも第三回を迎えることができました。このコンテストは、世界の平和を築いていこうというユネスコ憲章の精神の具体化に少しでも寄与していきたいという思い、それには目に見える異文化交流の場を作り、そこに若い方々も含めて多様な方々が参加していただくとよいのではないかという問題意識から、企画してまいりました。第一回の際は、スピーチをしていただく方を探すのに苦労いたしました。今回は応募が多く、この活動も少し浸透してきたかなと手ごたえを感じているところです。



異文化交流という意味での特色は、スピーチの後、スピーカーと会場の聴衆との交流会に表れています。これは玉川大学ユネスコクラブの小林亮先生に会場全体のファシリテーターになっていただいているものですが、聴衆をいくつかのグループに分け、それぞれのグループにスピーチをしていただいた後のスピーカーに参加していただき、各グループでは玉川大学と慶應義塾大学のユネスコクラブの学生さんに交流を進めていただいているものです。この交流が予想外に盛り上がり、年代を越えて異文化の交流が実現していることには驚きました。このような草の根的交流がそこかしこで行われていけば、平和とほどのように求めていくべきものなのか、少しずつ理解されてくるのではないかと思います。

この日本語スピーチコンテストは、明治学院大学の渋谷恵先生をはじめとする審査員の方々、閉会の辞をいただきました東京インターナショナルスクールの坪谷理事長、さらには港区をはじめとする関係機関のご協力により実現いたしました。改めてこれらの皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

4. プログラム

1. 開会宣言
2. ご挨拶 港ユネスコ協会会長 永野 博
3. スピーカー・審査員紹介
4. スピーチ開始
5. 休憩
6. 審査/会場参加者とスピーカーの交流会
7. 審査結果報告 明治学院大学教授 渋谷 恵（審査委員長）
8. 表彰式
9. 参加者の感想発表
慶應義塾大学ユネスコクラブ 松本 謙梓
10. 交流会総括
玉川大学教授 小林 亮
11. 閉会の辞
東京インターナショナルスクール理事長
坪谷 ニュウエル 郁子
12. スピーカーの記念撮影

5. スピーチ

①「健康大国 ニッポン」

Zhao Xuelon (中国) Chief Quotation Engineer ロトルクジャパン (株)

私は子供の頃体が強くはありませんでした。風邪やインフルエンザなどよく引き、小児科の常連客でした。自分は弱いことがわかっていましたので、気温の変化には、いつも気をつけていました。幸い中学校から体質がよくなってきて、元気で30代に入りました。来日8年間、大きな病気には一度もかかったことはありません。



この間、30歳になる人向けのサンマル健康チェックというイベントが住まいの区役所で開催されました。私も対象となるので、喜んで参加してきました。その時たくさんの知識や、アドバイスをもらうことができました。30歳になってから骨密度が下がるので、カルシウムの補助が必要とか、血管に影響される塩分取り過ぎも控えなければならないとか、お口の健康、心の健康、身体の姿勢まで教えていただきました。初めて聞く事の方が多かったです。私も自分なりの健康プランを考えてみました。まずラーメンのスープは飲み切らない。そしてお蕎麦のつゆも飲み切らない。どちらも大好きだけれども塩分取り過ぎの大敵なので我慢します。

ほとんどの人が毎年健康診断を受けていると思います。検診を予約してから当日までの間、皆さんはどうやって過ごすのでしょうか。検診の一週間前からとんかつや唐揚げなどのハイカロリー食を控えている人はいませんか。飲み会で烏龍茶しか飲めない人も増えるでしょう。みんな、危機感を持って検診を迎えているようですね。なぜなら、検診の数字が悪くなったら会社から保健指導がありますから。目標は社員の皆さまの健康のためです。お金も節約し、健康も得、一石二鳥のいいことでしょう。

私は日本に来て8年間に長崎、神奈川、東京三つの都市4回引っ越した経験があります。部屋を探す時スポーツの場は全然考えなかったのに、住み始めたらすぐ近くにジムやスポーツセンターなどが見つかるのに驚かされます。通いやすくして便利、近所の人々と友達になれる。皆は互いに励んで頑張って運動を続ける。目標はたった一つ健康な身体です。私はいつから運動がルーティンになったのかはもう覚えてないほどです。しかし長崎のプールや海老名のスポーツセンター、今の近所のスポーツクラブ、またその場で出会った人々が頑張っている姿はずっと印象に残っています。皆は健康の為に素晴らしい習慣を作っています。

来日8年の間、この社会は健康に関する便利な情報や設備などがきちんと整えられている事がよくわかりました。日本は国民の健康環境作りにたいへん工夫していることを強く感じました。アメリカの詩人エマーソンの言葉通り「健康は第一の富である」。健康であることこそ人生の幸せがある。これは私が感じた健康大国、日本です。

②「私の日本での生活は change, chance, challenge の 3C で表現できます」

Michela Mirabile (イタリア) 主婦

みなさん、こんにちは。 私は、ミケラと申します。今日は、私の日本での生活について、お話したいとおもいます。 私の日本での生活は、Change, Chance, Challenge の 3C で、表現できます。



まず第1は、Change です。

2年ほど前に、主人の仕事の都合で、イタリアのミラノから東京にやって来ました。私にとって、日本に来るのは初めてでした。それに海外生活も初めてだったのです。当然、日本語は全くわからず、ひらがなも、漢字も読めませんでした。まるで別の惑星にやってきたように感じました。毎日の生活が、すっかり変わって、とても困りました。それでも、めげずに日本語の勉強をはじめ、今ではだいたい話せるようになりました。 また、東京はミラノの生活とは違っていますが、安全なので、すぐに慣れました。周りの人たちは、やさしくて困っているといつでも助けてくれます。交通は便利で、電車が時間通りに来るのにも、驚きましたが、これには毎日感謝しています。東京は、華やかなだけでなく素敵な町なので、嬉しい生活の変化です。

次に、第2番目は、Chance です。

私にとって、日本は、とてもきれいで不思議な国です。古くて、豊かな文化も沢山あります。だから、古い伝統文化を習うチャンスがあります。最近では、茶道や書道の教室に通ったり、生け花の展覧会に参加したり、歌舞伎や相撲を見たりしました。また、私の家の近くには、自然が多くて、素敵です。特に好きな場所は、お寺と神社なので、よく散歩に行きます。境内では、おごそかな気持ちになり、精神的に落ち着ける機会（チャンス）があります。日本にいるあいだに、ぜひ、もっといろんな所に行きたいと思います。

3番目は、Challenge です。

私は、活発で好奇心の強い性格なので、日本への関心はますます高まっています。もっと日本語を勉強し、日本文化や日本人の考え方がわかるようになりたいです。今では、時々、近所の友達の家庭に集まり、文化交流をしています。例えば、私は料理が趣味なので、日本料理を教えてもらっています。先日も、てんぷらにチャレンジしました。それ以来、家でも作り、家族に喜んでもらっています。 かき揚げと、カボチャのてんぷらが気に入っています。

これからも、「為せば成る」ということわざを頭に、さらに3Cを大切に日本生活をエンジョイしていこうと思います。

有難う、ございました。

③「ふしぎで大好きなにほん」

Elyse Sieun Oh (USA/韓国) 西町インターナショナルスクール 2年生

みなさん、こんにちは！

わたしはオエリーズです。西町インターナショナルスクールの2年生です。8歳です。

わたしがにほんでいちばんだいすきなことはじんじゃとうどんです。

わたしのくにのかんこくとアメリカには、にほんのようなふるいじんじゃはありません。にほんにはきれいなじんじゃがたくさんあります。



わたしがいちばんすきなじんじゃはきょうとにあるいなりじんじゃです。なぜならかぞえられないぐらいのとりいわたしの七五三のきものいろとおなじです。すごくきれいです。オレンジいろのとりいのしたでたくさんのかいだんを あせをいっぱいかきながらがんばってうえまでのぼりました。てんごくにのぼるきぶんでした。

いなりじんじゃのあとおうどんを たべに いきました。

ふといめんとだしがほんとうに おいしかったです。きょうとのだしじるがあまりにもおいしくていっきにたべました。まいにち おうどんがたべたいです。

そして、もうひとつふしぎですばらしいとおもった ことはおかあさんときょうとでりょうあんじのにわをみたときです。ほかのくにではみたことのないと て も しずかで、シンプルでえのようなにわでした。きれいにならんでいるいしをみてにわにはいつてちらかしたいとおもったけどがまんしました。

それと、こけがふわふわあしてまるで ヴェルヴェットのカーペットのようでした。きもちがいいです。

また、とうきょうではきものをきたひとをあまりみません。でも、きょうとではきれいなきものをきたひとたちをあちこちでみました。うれしかったのは、まいこさんにもあつていっしょにしゃしんをとったことです。

にほんはとてもモダンなくにだけどむかしからのふるいものもよくミックス したすばらしいところが だいすきです。これからもにほんにだけあるいろいろなふしぎで おもしろいところをもっとみたいとおもいます。わたしはえをかくのがだいすきです。いなりじんじゃをかいてみました。みてください！

ありがとうございました！

④「日本に来て不思議に思った事」

Javlonbek Abdikarimov (ウズベキスタン) 国際日本語学院学生

皆さんこんにちは。

私はジャフロンと申します。ウズベキスタンから参りました。日本に来て1年半になりました。現在は日本橋浜町にある国際日本語学院で日本語を勉強しています。日本語は勉強中なので上手ではありませんが、これから発表します。聞いてください。



まず最初は、日本に来た時の私の気持ちを話します。

2018年4月留学生として日本に来ました。日本に留学する前に皆日本はどんな国か、日本の生活に慣れるかと思って、心配せずにいられなかったと思います。私も飛行機に乗って国から離れる時色々考え、飛行機を戻せるものなら戻りたいと思いました。しかし、日本に着いて、もう仕方がない最後まで頑張りましょうと自分に言い聞かせました。電車で街に近づくにつれて日本は思ったよりもきれいで、美しく見えてきました。私はちょうど桜が咲いた頃来たので、どこを見ても桜は日本をもっと美しくしていて、心が落ち着きました。今私が発表するテーマは日本に来て不思議に思ったことです。2つ話します。まず1つ目は時間に厳しいという事です。実は私の国ウズベキスタンでは自転車に乗っている人をほとんど見かけません。それに、女の方は全く乗りません。ですから、なぜ日本は交通がすごくいいのに自転車を利用する人が多いのかと不思議に思ったのです。アルバイト先の日本人に聞いてみました。そうしたら、その人は、日本は「時間に厳しい、急いでいる時は渋滞がない、お金も使わずに行きたいところに行ける、節約もできるから」と答えました。当時は答えの中で分かりにくかったのはなぜ時間に厳しいか私の質問とどういう関係あるかと思ったのですが、今分かってきたのは、日本で急に電車が止まったり、ラッシュアワーにあった時電車に乗れなくて、時間に遅れてしまうからです。日本で1回遅刻すると、信用されない、いい印象持たれないから、時間に厳しいと言うことが分かってきました。

2つ目、厳しいと言うのは日本では時間だけでなく、ルールもお金にもとても厳しいです。日本は現在便利さがたくさんあって、ここに来る外国人が「おおすごい」と言わずにいられないぐらい。しかし、この便利さを利用するためのルールがたくさんあります。私の友達が赤い乗り捨てokのシェアサイクル自転車の利用するルールがよくわからなくて、利用してしまいました。彼は1日の使用料金と1ヵ月の使用料金を間違えて、1ヵ月の請求書がびっくりするほど11万円でした。ある日自転車が使えなくなったので、会社に電話すると、「あなたは1ヵ月に11万円使っています。でもまだ払っていません」と言われました。11万円なんてもうびっくりです。彼は「私は外国人だからこんな漢字だらけの文章なんてわからないよ！知らない！知らない！」と何度も言いました。しかし、会社の方は「払わないと利子がついてもっともっと高くなりますよ！！」とまた電話がかかってきました。かわいそうな友達は一生懸命節約して、貯金したお金でこの金額を払うしかなかったのです。

1円も負けてくれない厳しい日本、全部契約どおりにやっている厳しい日本人。最後に私の言いたいことは。正面から見ると優しくて親切な日本だが、ある一面から見ると厳しさがたくさんある日本。外国人の私にはまだまだ理解するのは難しいです。毎日毎日トラブルの連続です。

時間に厳しい日本、ルールに厳しい日本、お金も厳しい日本ですが、日本のルールや伝統を尊重し理解できれば、日本のような不思議な国でも外国人にとって生活はしやすくなると思います。

終わりに 私は、今日はスピーチコンテストに参加して良かったと思います。それは、私は今まで大勢の前で話すことが苦手だと思っていましたが、苦手なものにも逃げないで挑戦し、努力する事を体験しました。私は日本語学校を卒業すると専門学校に進学します。専門学校でも私の苦手な勉強があると思いますが、今日の体験を思い出して逃げないで頑張りたいと思います。そして、専門学校卒業したら、日本の企業就職し、日本とウズベキスタンの架け橋として貢献できる人間になれるよう頑張ります。

ご清聴ありがとうございました。

⑤ 「Japan, India and Me」

Amey Kulkarni (インド) 教師

1190日。この数字は何をさすでしょう？

これは私が日本で過ごしてきたおおよその数です。今のところ、日本は私のホームです。日本にいて、最も寂しく感じられることは、インドにいと知らない人同士でも会話が始まることです。このことは、私が自分のためだけに存在しているのではなく周りの人々のためにも存在しているのだと感じさせてくれます。



母の教えるを思い出すことがある。日本に住んでいる私は、そのいくつかを皆さんに紹介したいと思います。彼女は私が幼い頃、私の世界に東アジアを紹介してくれた人だ。彼女はまた、生け花をするので、私が小学校の時に生け花の世界を紹介してくれました。でも、私が彼女から学んだことは、ほとんど毎日日本で見えています。我慢するという事です。私は12年前からずっとこの日本という海外で我慢してきました。

いつでも、そしてそれががっかりするようなことであっても、我慢することが自分とは異なる人達を理解することを手助けしてくれます。私が誤解をしたときも、我慢をすることですべてを理解することができます。同じ我慢ということが日本の文化の一部であるということだけではなく、日本の中では我慢することが求められています。混雑してギュウギュウ詰めでも誰も言葉をかきさない電車の中でなにか惨事が起こったとき、人々は黙々と助け合いながら解決の方法を探っています。

我慢がいいことなのか悪いことなのか、どんなものにも2つの面があり、我慢も同じです。

私は最近教師になりました、そして私の信条としているアフリカのウブントゥの格言「私達がいて私がいる」を通して自分の我慢を試しています。

そこで、今日はみなさんに我慢ですか？

我慢するのであれば、どんな気持ちですか？

以上

⑥ 「きこうへんどうにていあんしたいこと」

Karen Jia-rong Lee (オーストラリア/台湾) 聖心インターナショナルスクール学生

こんにちは、私の名前は、李カレンです。聖心インターナショナルスクールの6年生です。今日はがっこうでべんきょうしたきこうへんどうについて、お話ししたいとおもいます。



きこうは、いつもへんどうをしています。そのげんいんは、しぜんのげんいんと、人のかつどうによる げんいんがあります。しぜんのげんいんは、たいようのかつどうや、かざんのふんかや、たいきや、うみのへんどうなどの、しぜんげんしょうに よるものです。人のかつどうによる、げんいんは、人間はかせきねんりようをもやして、でんきをつくったり、つかったり、するときに、だしたおんしつこうかガスによるものです。

しぜんのげんいんと人のかつどうによるげんいで、きこうへんどうは、よりつよくはやくになりました。それでは、おんしつこうかガスを ださなければきこうへんどうは、とまるのでしょうか？こたえは、いいえです。すぐには とまりません。ではなにも しなくても よいでしょうか？ちがいます。きこうへんどうのしんこうを おそくして、そのえいきょうを 小さくしなければ いけないのです。わたしは、つぎのことを ていあんしたい とおもいます。

一つは、車に乗らないで運動にもなる じてんしゃに のります。これは、友だちと一緒にできますよ。二つ目は、車をつかうときは、友達などで あいのりをします。三つ目は、もしさむかったら ヒーターをつかわないで、セーターをもっときます。あつかったら、せんぷうきではなく、うちわを つかいます。そして、でんきをこまめに けします。つかっていないときは、メインスイッチをけします。テレビも見ていない ときは、コンセントをぬきます。また、テレビをみないで、本をよむようにします。どくしょ は、わたしたちのあたまに すごくいいですよ。

四つ目は、かいものに行くとき、エコバックをもっていきます。そして、プラスチックをへらしめます。わたしのお母さんは、いつも、かいものに行くとき、エコバックをもっていきます。五つ目は、12月は、クリスマス パーティなどのパーティがあり、しょつき をつかう chance がたくさんあります。プラスチックのフォークやスプーンをつかわないようにします。

これらの 小さいことで きこうへんどうをとめます。これができるのです。がっこうの先生が言ったように、みなさんひとりひとりがみらいをかえられます。メリークリスマス みなさん！

⑦ 「日本に来てうまれた私の心」

Abduqosim Suraiyoi (タジキスタン)

タジキスタン国立言語大学、武蔵野大学交換留学生

私はどうして日本語を選びましたか。急に興味が深くなったことは何ですか……。日本語だけで話すのはどうですか、日本では一人暮らしが 難しくないですか。日本に来る前にそういう質問を自分で何回もしました。私の日本語はあまりよくないのでどうやってアルバイトを見つけれるのか。授業が分かるかなどとても心配でした。でも日本に来て日本はどんなところかを自分の目で見ました、日本は暮らしやすくて、日本人も優しくて授業もあまり難しくないです。



日本に来て初めてアルバイトを始めたとき何度も間違えましたけど、日本人は間違えても分からなくてもおこりません。「今度は気をつけてくださいね」と言います。急に誰かにぶつかったときや何かを落としたときにも自分から謝ります。「すみません、とかごめんなさい、とか申し訳ございません。」と言います。

日本に留学してさまざまなことが分かりました。それは人を思いやるという気持ちです。ある日、コンビニでアルバイトをしているとき私の友達はコーヒーを入れる紙カップの束を全部落としてしまいました。落としたコップは全部使うことができません。でも店長は怒らないで「大丈夫です、気にしないでね」と言いました。使女は全部を自分で弁償しますと言いましたが店長は「いいえ、このコップはほかのことに使いますから大丈夫ですよ」と言ったそうです。

その後、アルバイトに入った私は、店長が全部のおとしたカップの数ではコーヒの数をレジに打ち込んで、お金を払っていました。コンビニでは紙カップの数で売り上げを計算しているからそうしなければならなかったのでしょうか。私はこれを見てびっくりしました。私の国にはアルバイトで失敗したとき、始めたばかりじゃなかったら、弁償させられると思いますので。でも日本ではおこらずにまた自分はお金を払って損をしてもミスをした人に言いません。一円でも見つけるとこれを忘れ物とかおとしたものにメモをおきます。自分で盗みません。これが日本人の思いやりの気持ちだと思います。

アルバイト先の人のほかに、また思いやりのある人がいます。それは私たちの寮の管理人さんです。管理人さんはいつも母親のようにしてくれます。いつも留学生を助けたり教えたりしています。母国から遠く離れていて本当のお親御さんと一緒にいないのだから「あなたたちは今なんでも私にきいてください。」と管理人さんはいつも言っています。思いやりのある人たちに私は自然と心からありがとうと言いたくなりました。感謝の心が自然と生まれてきました。

日本に来て「ありがとう」を伝えたい人がたくさんいるのが分かりました。私はこの言葉が大好きになりました。私は帰国して母にありがとうといいたいです。「ママ私のことを応援してくれてありがとう、いつも私の好きな料理を作ってくれてありがとう、友達とけんかして泣いたとき『大丈夫、大丈夫だよ』と言ってくれてありがとう、私のことを誰よりも心配してくれてありがとう、家族のことを大事にしてくれてありがとう、私のわがままの話を聞いてくれてありがとう、いつも私のそばにいてくれてありがとう。ママ大好きだよ。」と言いたいです。いつも電話で話しているときママ大好きと言っています。私は日本に来て「ありがとう」という言葉が大好きになったのでタジキスタンに帰ってもたくさんありがとうといいたいです。

日本に来て思いやりと感謝の心の素晴らしさを知りました。国に帰っても、この気持ちを忘れずに周りの人に伝えていきたいと思います。

⑧「日本って素敵！」

Huang Chen (中国) システムエンジニア

「ちはやぶる 神代もきかず 龍田川 唐紅に みづくくるとは」
皆さんはこの和歌をご存知ですか。これは百人一首にある秋の紅葉の素晴らしい風景を歌っている和歌です。



改めまして、こんにちは！ 和歌が大好きで中国江西省出身のコウシンと申します。日本に住む前には、何回も出張に来ましたが、その時は品川が一番好きで、いつか住んでみたいと思ったのですが、今年はなんと夢が叶い、今では夢の町、品川に住んでおります。今日は東京に来て一年8ヶ月の間で感じた日本の素晴らしいところを三つお話ししたいと思います。

まず一つ目、人々のマナーがとても素晴らしいです。エレベーターに乗るときも、ボタンの近くにいる人は必ず開くボタンを押して、みんなを出してから自分が出ます。そして、道を渡るときも、横から来る車は絶対待っていてくれます。電車から降りるときも、大体乗る人は通路を開けて、みんなが降りてから乗ります。こういうジェントルな国、なかなかないと思います。

そして二つ目、日本語がとても使いやすいのです。日本語は表現力が非常に強い言語で、豊富な擬声語と擬態語があり、また三種類の敬語があり、謙譲語、尊敬語と丁寧語を上手に使い分けることによって、人とのコミュニケーションがスムーズになり、社会生活もしやすくなります。

最後に三つ目、日本はとても綺麗という点です。日本は四季折々の景色があります。春には友達や家族揃って、ピクニックを楽しみながら、お花見ができるし、夏には花火大会があり、秋には、一面に赤に染まる紅葉がみれて、冬には輝かしいイルミネーションがあちこち飾られています。私の場合は、家の近くに目黒川があるので、両岸にある果てしないイルミネーションのあかりに毎日感動を受けています

以上、私が素敵だなあと思った三つのことについて、お話ししました。私は日本に来て、毎日楽しくて充実した日々を送っており、大変よかったなあと思いました。これからも引き続き、日本語を勉強して、もっとたくさんの人に日本のことを知ってもらえるよう、日中友好のために頑張りたいと思います。ありがとうございました！

⑨「できることからやる」

Fathan Abdillah Iskandarmuda (インドネシア) Tokyo International Business School

みなさん、こんにちは
毎日どのぐらいプラスチックを使っていますか？

現在、プラスチックは世界の環境問題の一つになっております。特に海洋の中にたくさんプラスチックごみを流してすててしまいました。このゴミは100年以上かかってもなくなることがありません。そのため、日常生活でプラスチックの使用を控えようと、世界中の多くの動きがあります。



日本でも国として気候変動とプラスチックの問題に対して、たくさんキャンペーンをやります。例えば、SDGs が世界で日本の会社を8千ぐらい会社も守ります。よく頑張りますね。

でも、個人的に日本でプラスチックの使用量まだまだ多いと思います。私の経験によって、コンビニへ行くとき ”袋を要りますか” と聞かれた。果物屋さんへ行くとき、全部果物をプラスチックでカーバしています。学校でも友達と先生は毎朝、ペットボトルの飲み物をよく買っています。皆さんどう思いますか？日本でプラスチックを使いすぎると思いませんか？

ほかの国に比べて、日本の道にはごみがないし、ごみ分別もよくやってるし、ほとんどきれいな国ですが、プラスチック問題は政府の責任だけではなく、日本の問題ではなく私たちの地球の問題だろう。みんなと一緒に努力しなければなりません。
一人一人できることからやります。

今日は、プラスチックの使用をやめるか、プラスチック制限し、友人や同僚がプラスチックを使用しないようにすることをおすすめしてほしいです。

私は今プラスチックボトルを買わなく、自分のボトルを家から持っていくようになりました。あなたはどうですか？

⑩ 「The Capital city of Ethiopia」

Brook Abebe Damtew 糀谷中学校

アジスアベバはエチオピアの首都です。アジスアベバにはたくさんの外国人がきます。

アジスアベバはコーヒーセレモニーがとても有名です。

アジスアベバには大きな博物館があります。この博物館にはたくさんのエチオピアの歴史の遺跡があります。この博物館で一番有名なものはルーシーです。ルーシーはエチオピアでみつかった最初の人間です。

そしてアジスアベバにはアフリカ連合の本部があります。



いろいろなおまつりがあるときにたくさんの人がアジスアベバにきます。たとえばメスケルとラマダンがあります。メスケルはキリスト教のおまつりです。ラマダンはイスラム教のおまつりです。アジスアベバはこのときキリスト教のひともイスラム教のひともみんなでいっしょにお祝いします。

6. 会場参加者とスピーカーとの交流会

玉川大学小林亮教授のご指導のもと、玉川大学ユネスコクラブ、慶應義塾大学ユネスコクラブの学生の協力により、参加者が3つのグループに分かれ、それぞれスピーカーを囲みながら「留学生の苦労話や、日本や日本語へのおもい、日本観や今後の発展など」について自由な質疑応答を行いました。

-この間、審査委員は別室にて審査を行いました-



受付：慶應義塾大学ユネスコクラブのみなさん



慶應・玉川大学ユネスコクラブのみなさん



交流会の様子

7. 審査委員

審査委員長	渋谷 恵	明治学院大学教授
審査委員	横井 彩	国連大学サステナビリティ高等研究所事務総括
審査委員	穀山 杉郎	港区教育委員会生涯学習課
審査委員	玉置 修二	新橋赤レンガ発展会役員
審査委員	永野 博	港ユネスコ協会会長

8. 審査基準

- ① 自分の思いや考えが伝わってくるか
- ② 未来に向かって頑張る姿勢が伝わってくるか
- ③ 日本人や日本文化に対する新鮮な見方、考え方があるか
- ④ 異文化に対する理解の有無
- ⑤ 感動出来る内容

9. 審査結果

渋谷 恵 審査委員長より、以下の通り受賞者の発表が行われました。

「最優秀賞」	Karen jia-rong Lee
「港ユネスコ協会会長賞」	Abduqosim Suraiyoi
「審査委員長賞」	Fathan Abdillah Iskandarmuda
「港区長賞」	Zhao Xuelon
「優秀賞」	Michela Mirabile, Elyse Sieun Oh, Javlonbek Abdikarimov, Amey Kulkarni, Huang Chen, Brook Abebe Damtew



審査員 左から玉置修二さん、横井彩さん、渋谷恵先生、穀山杉郎さん、永井博会長



左から Xuelon さん、Iskandarmuda さん、Lee さん、Suraiyoi さん



審査委員長の渋谷先生より「審査委員長賞」授与

10. 表彰式

「最優秀賞」の受賞者には港ユネスコ協会永野博会長より、賞状・カップ・記念品（輪島塗夫婦箸）が、「審査委員長賞」の受賞者には渋谷恵審査委員長より、また「優秀賞」の方々には港ユネスコ協会菊地賢介副会長より、それぞれ賞状・盾・記念品（輪島塗夫婦箸）等が授与されました。



永野会長より「最優秀賞」の授与



菊地副会長より「優秀賞」の授与



スピーカー全員の記念撮影

11. 閉会の辞

東京インターナショナルスクール理事長 坪谷 ニュウエル 郁子

まずは受賞なさった皆様、おめでとうございます。
コンテストにご参加なさった皆さんの発表は、どれも素晴らしく、皆さんに
一等賞を差し上げたい気持ちで一杯です。感動いたしました。本当にどう
もありがとうございました。

また会場の設営などのお手伝いをしてくださったボランティアの皆さん、
どうもありがとうございました。永野会長始め会員の皆様の今日に至る
までのご準備、ご尽力には頭が下がります。お疲れ様でした。今日の会はこ
こにいる誰が欠けてもなし得なかったのです。本当に皆様ありがとうございました。

今日の会ではっきりわかったことは、国や民族の違いを乗り越えて平和に共生する社会こそ
私たちが目指すべき姿であるということです。それが今日のこの場では実現されています。そし
てそれに勝る喜びはないこともここにいる誰もが感じていることと思います。そしてこの感動
の輪をこれからもっともっと広げていきましょう。平和に勝るゴールはありません。



12. スピーチコンテストの感想

慶應義塾大学ユネスコクラブ 松本 謙梓

今回、私は慶應ユネスコクラブの活動の一環として港ユネスコさん主
催のスピーチコンテストに参加させて頂きました。

スピーチコンテストでは多くの方々の発表を聞く機会がありまし
た。海外から来られて日本に在住している方の日本の良いところや習
慣、文化の違いで困ったことなど外からの視点は普段私たちが気にも
留めないことに気付かされました。そして、改めて日本は良い国だと認
識することができました。その点は文化や精神など私たちが身に染み
て分かっていることであり、誇るべき所です。一方で日本人は大人し
すぎる、真面目すぎる、なんて声もあり目を合わせてくれない、日本語で
話しても遠慮がちに話されるなど気にされている方もいました。グローバル化が進み、国境の垣
根がなくなる中で島国だからといって閉じこもってはいは時代に置いていかれてしまうと危機
感を覚えました。いろいろな文化や視点に触れることができたスピーチコンテストは良い交流
の場で私にとって素晴らしい経験となりました。



13. 主催側からのひとこと

港ユネスコ協会副会長 奥村 和子

第三回日本語スピーチコンテストの開催にあたり、玉川大学ユネスコクラブ、慶應義塾大学ユネスコクラブの皆様から頂戴したご協力に対し、心よりお礼を申し上げます。

今回は港区区長賞も新たに加わり、良い緊張感と重みとなりました。回を重ねるごとに参加者の国も多岐にわたり、小学生から社会人10名が素晴らしい内容をスピーチされ、日本&日本語への関心が深まっていると実感いたします。参加者とスピーカーの交流会は、協力大学生のリードのもと、和やかに会話も弾み一段と相互理解が深まる時間となりました。私どもは民間ユネスコ運動の「相互理解を深めコミュニケーションの分野で国際平和の促進」に少しでも近づくべく、これからも回を重ねていく所存です。末筆ながら、後援いただきました港区教育委員会、日本ESD学会、ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センターの皆さまのご協力に感謝申し上げます。



小林教授・永野会長・慶應・玉川大学ユネスコクラブの皆さん

第四回 日本語スピーチコンテスト

出場者・見学者を募集しています！

開催日： 2020年12月13日（日）
13時30分～16時00分

場 所： 港区立男女平等参画センター
「リーブラ」ホール

お申込み・お問合せ

港ユネスコ協会事務局

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3

[Tel:&Fax: 03\(3434\)2300](tel:0334342300)

[Mail:info@minatounesco.jp](mailto:info@minatounesco.jp)

MINATO Unesco Association

3-16-3, Shinbashi

Minato-ku Tokyo 105-0004

[Tel:&Fax: 03\(3434\)2300](tel:0334342300)

[Mail:info@minatounesco.jp](mailto:info@minatounesco.jp)



NINATO TOKYO